

〈特別寄稿〉

## ソーシャルメディアと日本語教育

リチャード・ハリソン

### はじめに

みなさんこんにちは。神戸大学のハリソンと申します。お招きに預かりまして、誠にありがとうございます。貴重なお時間を割いていただき、とても光栄です。

今日は「ソーシャルメディアと日本語教育」について一緒に考えていきたいと思います。この講演会では、日本語教育におけるソーシャルメディアの動向と応用言語学、第2言語習得との関連について考えたいと思います。いくつかのテクノロジーの特徴、実際の応用事例を紹介するとともにそれぞれの課題についても議論していきたいと思います。

### 私の前世～「SE」

私は、以前はコンピュータの専門でイギリスの大学で学び、実際にSE（ソフトウェア・エンジニア）として働いていました。毎日、朝9時から夜遅くまでコンピュータの画面に向かい、プログラムを作っていました。最初はコンピュータプログラムができるようになると達成感もあり、実際動き出してもよく結果が出ると非常に嬉しかったです。しかし、作業をしているうちに、常にコンピュータとばかり対話しているような感じがし、何か物足りない気持ちになりました。もっと他にできることはないかと思うようになったのです。そこで、もっと広い世界があるのではないかと思い、マンチェスター大学で夜間コースを探してみました。

そこにはちょうど留学している日本人の方がいて、縁があって友達になり、日本とイギリスの話を互いにしていた時、共通点があることに気づいたのです。日本とイギリスは島国同士だし、国民性も結構似ていると思いました。図書館に行って日本に関する本を調べてみると、30年前の話ですが、1冊しかありませんでした。その本は、“Teach yourself Japanese”という本で、つまり、自分で日本語ができるようになるというものでした。少し借りて、コンピュータ言語をやっていたので、言語系として面白いのではと思い読んでみました。開くと全てローマ字で書かれており、「これはペンです」などの初級日本語の内容で、案外簡単なのではないかと思えました。最初の何週間

かはこのようにその本を読んで勉強し、友達と少しばかり会話ができるようになり、「これは、できるのではないか」と甘く考え日本語の勉強を始めました。日本人留学生の友達にも半年間日本語を教えてもらいました。その後、その友達は日本に帰国し、「いつか日本に来てね」と言わされました。ただ、当時30年前は飛行機の直行便もなく、イギリスから20~30時間もかかる道のりで、非常に遠い国であるという印象で、「そのようなところへいつ行けるのだろうか」と思っていました。

しかし、お金を貯めて日本にやってきました。6週間ほど旅をして、より日本が好きになりました。しかし、私が学んだ日本語はまだまだだと実感して、もっと勉強しなければいけないと想い、イギリスに戻りSEの仕事を辞め、もう一度大学に入りました。ちょうどその当時、コンピュータを使って日本語と英語の翻訳システムを研究されている先生がいて、一緒に研究をしようと誘っていただき、その研究室に入ったのです。この当時の私のモチベーションは日本語の方に向かっていました。

## 私

1984年にイギリスで最も大きな日本語学科のあるシェフィールド大学に入学し、その研究室の先生であるチェコ人の言語学者の下で研究をしました。その間、私は大阪外国語大学でも1年間、日本語日本文化研修留学生として勉強させていただきました。1988年に卒業しましたが、その頃の日本はバブル経済に差し掛かっている時代で、それと同時に外国の大学では日本語学科の設置が増えてきました。イギリスにも日本の企業、日産、トヨタ、ホンダ、SONYなどが入ってきました。

2015年度高知大学国際連携推進センター講演会&ワークショップ ソーシャルメディアと日本語教育	
私	
1984~1988	英国： シェフィールド大学
~1994	英国： スターリング大学
~1998	豪州： メルボルン大学
~1999	大阪： 国際交流基金関西センター
~2003	名古屋： 名古屋大学留学生センター
~現在	神戸： 神戸大学留学生センター



その時、私はまた日本に戻ってコンピュータの研究をしようと思いましたが、先生にイギリスに残って先生になるように言われましたので、考えた末イギリスに残ることにしました。そして、スコットランドにあるスターリング大学で1994年まで日本語の教師をしました。その後、あるきっかけで1998年まではメルボルン大学の日本語学科に行きました。ちょうどその当時、オーストラリアも日本語ブームで日本語を勉強する学生が1年生だけでも600人ほどいました。4年間日本語を教えました。イギリスには当時それほどの学

習者はいませんでしたが、オーストラリアは移民の国ですので、様々な学習者がいたためイギリスとは違った学習環境でした。短い間でしたが、オーストラリアで教師ができたことは、自分にとっては非常に刺激のある4年間でした。

1999年までの1年間は大阪にある国際交流基金関西センターで仕事をさせていただき、その後、名古屋大学留学生センターに移り、新設されたマルチメディアを使った教育を促進する部門に所属し助教授となりました。そして、名古屋で4年を経た後、2003年関西に戻り現在、神戸大学留学生センターで働いています。

私が様々な場所を移り変わって分かったのは、それぞれの場所で学習環境が全く違うということです。例えば、イギリスでは英語でしか話しません。共通語でもある英語ができると自負しているため、あまり外国語の学習には意欲がないのではないかと思います。

### ソーシャルメディアとは

ソーシャルメディアとは何か。私の専門は日本語教育や教育工学であり、教育工学においては様々な部分がありますが、最近ではソーシャルの面とメディアの面を組み合わせたものを研究しています。

私が教材を開発していた頃、CALLと呼ばれる Computer Aided Language Learning を使っていった時代やマルチメディアの誕生、90年代後半には WWW の到来による進展がありました。私が大学に通っていた時は、友達とのやり取りもメールではなく手紙や電話でした。国際電話も一枚のカードではイギリスからだと5分くらいしか喋れない時代であったので、何を話すか事前に考えたものでした。なので、皆さんは今、素晴らしい時代に生きていると思います。また、今はもうピークを過ぎましたが、WEB 2.0 の到来などもありました。そして最後には、これらのテクノロジーと第2言語の習得にどのような関係があるのか考えていきたいと思います。

ソーシャルメディアとは、インターネット上で展開される情報メディアのあり方で、個人による情報発信や個人間のコミュニケーション、人の結びつ

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ	
はじめに	ソーシャルメディアと日本語教育
・ソーシャル・メディアとは	
・Computer Aided Language Learning	
・マルチメディアの誕生	
・WWWの到来	
・WEB 2.0	
・第二言語習得	

神戸大学留学生センター・リチャード・ハリス

きを利用した情報流通などといった社会的な要素を含んだメディアのことです。昔は私のようにコンピュータを専門とする知識がなければ何もできませんでしたが、今は誰でも自由に使えます。情報発信も、最近では自分から発信できるようになりました。

また、今、私が一番興味を持っている社会的な要素を含んでいることにも注目していきたいと思います。10年前はホームページを作るのにも専門知識が必要なため大変でした。しかし、今では比較的容易にできるようになりました。ソーシャルメディアは、利用者の発信した情報や利用者間のつながりによってコンテンツを作り出す要素を持ったWebサイトやネットサービスなどを総称する用語です。最近では皆さんかよく目にする言葉である wikipedia や SNS など、一人が作るのではなく、色々な人が情報を提供して皆に伝えるようなツールができてきました。その他、ミニブログ、ソーシャルブックマーク、ポッドキャスティング、YouTube のような動画共有サイトが含まれます。つまり、ソーシャルメディアとは、利用者の発信した情報や利用者間のつながりによって、コンテンツを作り出す要素を持った Web サイトやネットサービスを総称する用語です。1人で作るというよりも皆でコンテンツを提供しあって、共有して一緒に役立つものを作るという時代になったことが分かります。今では皆さんにとっては当たり前の世界かもしれないが、一昔前まではそうではありませんでした。本当に大きく変わりました。

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
はじめに  
・ソーシャル・メディアとは  
インターネット上で展開される情報メディアのあり方で、個人による情報発信や個人間のコミュニケーション、人の結びつきを利用して情報流通などといった社会的な要素を含んだメディアのこと

高知大学留学生センター・リチャード・ハリソン

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
はじめに  
・ソーシャル・メディアとは  
利用者の発信した情報や利用者間のつながりによってコンテンツを作り出す要素を持つたWebサイトやネットサービスなどを総称する用語で

高知大学留学生センター・リチャード・ハリソン

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
はじめに  
・ソーシャル・メディアとは  
最近ではWikiやSNS、ミニブログ、ソーシャルブックマーク、ポッドキャスティング、動画共有サイト、などが含まれる。

高知大学留学生センター・リチャード・ハリソン

## CALL（教材作成、行動主義）

次に、CALL の話です。CALL は、Computer Aided Language Learning のことで、主にインターネットに載せる教材を先生や大学院生、コンピュータの専門家たちと共同で作って発信しました。教育的な面から言うと、行動主義が中心の理論でした。Mac の誕生

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
CALL（教材作成、行動主義）

- ・Macの誕生
- ・マルチメディア
- ・文字 ABC
- ・音声 ♪
- ・画像 📸



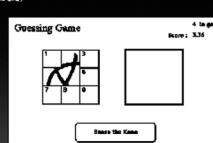
神戸大学留学生センター・リチャード・ハリソン

により英語だけではなく、様々な言語を処理できるようになりました。私もこれによりコンピュータでは Mac で初めて日本語を打ちました。そして、Mac はマルチメディアの側面を持っています。このマルチメディアとは、今では当たり前の話ですが文字も使え、さらには音声、映像まで使える画期的な進展でした。それまでのコンピュータでは使えませんでした。マルチメディアのようなものを作ろうとすれば、非常に高度な技術が必要となる時代であったのです。これは80年代中頃の話です。

続いて、ハイパーカードとハイパームediaの登場がありました。ハイパーカードは、現在のインターネットの前段階で、このソフトは全ての Mac に入っていました。また、ハイパームediaは、単に文字、音声、画像を組み合わせた教材として見るだけではなく、インターネットを使って共有するということでもあります。今では当たり前の話ですが、これらを初めて見た時、皆で驚いたものです。ハイパーカードを使ってプログラミングし、教材が作れる時代になったということです。

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
CALL（教材作成、行動主義）

- ・ハイパーカード
- ・ハイパームedia
- ・Hypertalk
- ・文字練習ソフト



神戸大学留学生センター・リチャード・ハリソン

そこで作られたのが例えば、「文字練習ソフト」です。文字を入力し、クリックすると音声が出て発音も学べ、アニメーションで書き方も学べるというものです。フラッシュカード形式で繰り返し練習し覚えられ、アニメーションを使った単純なクイズ形式でも学べます。これらをインターネット上で共有できるようになりました。結局、インターネット上で共有するか、CD で共有するかです。

## WWW の到来

90年代半ば頃には WWW の到来もあり、ハイパーカードで作られたハイパーimediaは、さらに活発化し教材のインターネット共有が行われるようになりました。Hypertext より HTML のようなプログラムが登場し盛んに使われるようになりました。現在、皆さんにはホームページなどを作ったり、スマートフォンを使ったりしていますが、それらの裏側ではとても複雑な言語が働いています。WWW は急速に広がり、色々な所からアクセスできるようになり、色々なリソースができ、共有されるようになりました。

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育

WWWの到来

- ・ハイパーimedia
- ・HTML
- ・リソース
- ・協同学習
- ・問題解決型学習



高知大学留学生センター・リチャード・ハリソン

## 協同学習・問題解決型学習：みんなの教材サイト

さらに、協同学習、問題解決型学習として、何かの問題を Web に載せて解決する学習サイトも誕生しました。リソースの例として、国際交流基金の「みんなの教材サイト」があります。これは、国際交流基金が作った SNS です。ある意味では、Facebook と同様の機能を持っています。「先生の広場」というところでは、国際交流基金が提供している教材も含め、世界中で無料で個人の教材が提供でき、相手の教材も使うことができます。絵カードや音声ファイルのようなものが例として挙げられます。最近では「みんなの教材サイト」の中だけではなく、Facebook などで世界中の先生が交流しています。

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育

リソース



2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育

リソース



## リソース：みんなの Can-do サイト

また、国際交流基金による「みんなの Can-do サイト」というサイトも例として挙げられます。現在、日本語教育の一つの大きな課題として「評価」をどのようにするかということがあります。今は「日本語能力試験」などがありますが、仮に学生が N1 に合格したとして、「では、N1 に合格したら何ができるのですか」と言われると、明確な答えを出すのは難しいと思います。この問題に対して、国際交流基金はヨーロッパの評価のスタンダードを研究し、日本語学習者が何ができるようになったのかを示すための「～できる」といったサイトを立ち上げています。このサイトでは、教師が教育現場で学生に教えるにあたって適当な教材をキーワードで検索することで、エクセル形式でそのすべての「Can-do」の記述が表示されます。これにより、シラバスやカリキュラムを簡単に作成することができるようになりました。サイト自身は国際交流基金が作っていますが、教材は皆で共有されていると言えます。



## リソース：ポッドキャスト

次に、「ポッドキャスト」ですが、「ポッドキャスト」とは、いわゆるインターネットラジオのことです。リアルタイムで聞くのではなく、録音されている音声をスマートフォンなどでダウンロードし、いつでも好きなときに聞くことができます。例えば、「Japanese 101」は、アメリカでは日本語教育の初級レベルのポッドキャストとして広く普及しています。これをダウンロードし聞くことで、音声で聞く練習になります。これは、無料で利用できます。現在もポッドキャストは爆発的に増えてきています。



京都日本語学校が提供しているビデオのポッドキャストもあります。一つのビデオは、大体 3 分ぐらいで見ることができます。より自然な日本語が勉強できるようになるのです。

## リソース：YouTube

関西で働いていると、学生から関西弁を教えてほしいという要望もあります。こういうときに立命館大学の先生が作成した YouTube 教材動画が役に立ったことがありました。

ただ、関西は関西弁を話すとはいっても、京都、大阪、神戸では全然違います。

例えば、京都では、「～していらっしゃる」を「～してはる」と言います。大阪では、尊敬語として「～はる」を使います。京都では、「猫が食べてはる」と「～してはる」を使うため、大阪弁で使用する「～してはる」とはまた異なります。神戸では、この表現は使いません。私は神戸大学で教えているので、関西弁を教えてほしいという学生に対して神戸弁という形で教えています。大阪弁では、「ありえへん」や「わからへん」、神戸弁では、「～している」の意味である「食べとう」や「飲んどう」、「片づける」という意味の「かたす」などの方言があります。大阪大学で働いていたときには、大阪弁、神戸では神戸弁というように使い分けています。

このように、関西弁の中にも色々ありますが、このビデオを見たドイツにいる先生もこのビデオに準じた教材を作成しました。これは PDF で無料でダウンロードでき、共有できるようになっています。そのため、私に関西弁を教えてほしいとやってくる学生たちにはまずこれらの教材を見てみるように勧めています。

## 協同学習・問題解決型学習：WebQuests

その他にも共有するということでいうと、E-mail を使ったり、ホームページを作ったり、リアルタイムでビデオ会議システムを使った協同学習もできます。実際に、メルボルン大学と東北大間でのそれらの学習交流もありました。

また、問題解決型学習と呼ばれるものでは、アメリカの教育学の先生が開発したモデルである WebQuests を応

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育

リソース

- ・ビデオ共有サイト：YouTube
- ・関西弁
- ・（立命館大学）

神戸大学留学生センター・リチャード・ハリソン

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育

協同学習

- ・メルボルン大学 - 東北大学
- ・E-mail
- ・HP作成
- ・ビデオ会議

神戸大学留学生センター・リチャード・ハリソン

用して日本語教育のためのものを作成しました。その WebQuests の例としては、国際交流基金関西国際センターでの外交官研修で WebQuests を使用して研修を行ったり、名古屋大学留学生センターでは大学院生と共同制作し、留学生生活リソースを作ったりしました。これは、留学生が来日する前に読んでおくべきものとして作られました。内容としては、入学準備や大学での授業の選び方、新しい生活をするにあたって必要なことが含まれています。インターネットが使えるようになって、このように日本語教育に応用できるようになったということです。

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育

問題解決型学習

- ・WebQuests
- ・国際交流基金関西国際センター
  - ・外交官研修
  - ・名古屋大学留学生センター
  - ・留学生生活リソース

神戸大学留学生センター・リチャード・ハリソン

## WEB 2.0 の登場

続いて、WEB2.0の登場です。WEB2.0では、Facebook、wiki、YouTube、googleなど現在ではなじみ深い様々なツールが登場しました。これら自体がコンテンツではなく、それらを使用している人々がコンテンツを作っていくものなのです。ポッドキャストのような受動的な学習に対して、現在では能動的学習が増えました。受動的な学習は得ることはできても、得てどうするかということになるため、能動的学習とは言えません。例えば、ブログや wikipedia、SNS、YouTube など自分に合う道具を使って、レゴブロックのように自分自身で色々なものを組み立てることで1つのサイトを作ることができます。

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育

WEB 2.0 能動的学習

- ・ブログ
- ・Wiki
- ・SNS
- ・YouTubeなど



2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育

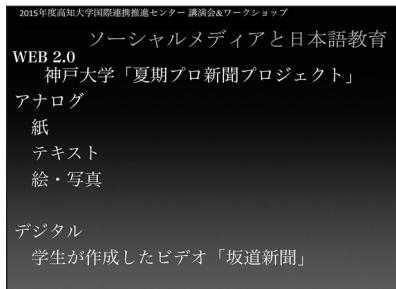
WEB 2.0

- ・先生が教材 → 学生がコンテンツ
- ・例：「小咄」(Middlebury School)
- ・YouTube 「小咄、日本語学習」検索

神戸大学留学生センター・リチャード・ハリソン

WEB2.0が登場する以前は、先生が教材を作って提供するスタイルでしたが、現在は学生がコンテンツを作っているとも言えます。例として、「小咄」

が挙げられます。Middlebury School、これは、アメリカで行われている日本語の集中プログラムのようなものです。アメリカで講師をされている畠佐一味先生が考案した集中プログラムの中に落語を取り入れ、実際に落語家を呼び、学生たちに落語を作らせるという授業内容がありました。最後には学生が練習して「小咄」をコンテスト形式で披露するのです。その発表風景をYouTubeにもアップしています。

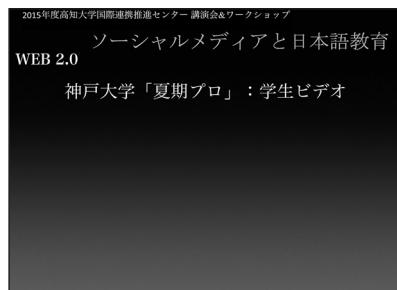


神戸大学の例としては、「夏期プロ新聞プロジェクト」があります。神戸の街の色々な所に行き、学生自身で新聞を作成するというものです。アナログ的に紙と文字、絵、写真を使った新聞作りや映像を使ったデジタル的なものもあります。実際に「坂道新聞」というビデオを作成し、神戸の酒蔵に行き酒の作り方を調べたり、三宮で若者言葉を調査したりしました。ビデオで作成する際には、どのように作成していったかの過程も記録として見ることができるので、そこが面白い点です。

他にも、学生が主体となってインターネット新聞を作成し、その中の「ノリ」の文化について調査したりしました。

## ソーシャルメディアの動向

ソーシャルメディアの動向のまとめとしましては、まず、先生が作る教材から学習者（学生）が作るコンテンツへと変化していきました。そして、それに伴い、受動的な学習から能動的な学習へ、さらに、インプットからアウトプットへと移り変わってきました。今では、私の所属する神戸大学とオ



ストラリアのメルボルン大学が YouTube でビデオを共有し、お互いのビデオに対しコメントを出し合っています。

また、神戸大学では、「国際学生シンポジウム」という行事が12月に行われています。これは、学外の施設を借りて行う留学生25人と日本人学生25人の1泊2日のシンポジウムです。様々な話題でディスカッションして、発表を行います。これは、先生が主体ではなく、学生が実行委員として、留学生5人、日本人学生5人で計画を立てて実行運営し、報告まで行います。このシンポジウムは、阪神大震災後すぐ設立され、2014年でちょうど20年を迎えました。留学生と日本人学生が互いに助け合って運営しているのです。この活動では、Moodle というシステムを使っています。実行委員がこのシステムを活用して情報を共有できるのです。

続いて、神戸大学全体のソーシャルメディアの利用についてです。留学生センターでは、Facebook を同窓会の情報交換として利用しています。Facebook 上で情報を流し、大阪や東京で同窓会のパーティーを行います。また、留学生向けの就職情報や留学生センターの行事についての情報も流しています。Facebook では見た人がシェアすることができるので情報がどんどん広がります。現在は、500人がこのサイトを見ていると言えます。

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
ソーシャル・メディアの動向

- ① 先生が作る教材から学習者が作るコンテンツへ
- ② 受け身的な学習から能動的学習へ
- ③ インプットからアウトプットへ

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
ソーシャル・メディアの動向 社会文化的アプローチへ  
・日本語教育の事例 YouTube  
・豪州メルボルン大学 <> 神戸大学

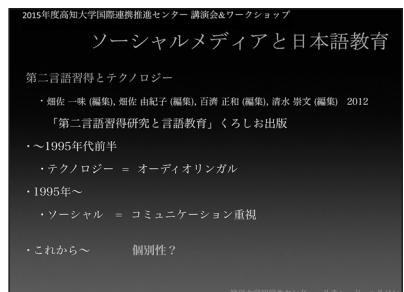
2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
ソーシャル・メディアの動向  
・日本語教育の事例 Moodle  
・神戸大学国際学生シンポジウム

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
ソーシャル・メディアの動向  
・神戸大学におけるソーシャル・メディアの利用  
・FB  
・留学生センター  
・YouTube  
・国際文化学部  
・Twitter  
・広報室

YouTube では、神戸大学のそれぞれの学部の紹介ビデオを作成し、公開しています。また、Twitter 上に広報室で大学のシンポジウムやイベントの情報を発信しています。ここでは、upstream を使った文化祭のリアルタイムの配信や卒業した先輩の声が届くサイトの発信も行っています。スマートフォンなどで登録しておくと、自動的に情報を受け取れます。学内の他の学部、サークル、イベントなど何をやっているのかを知り共有することができるようになりました。他にも、就活のためのサイトである LinkedIn があります。

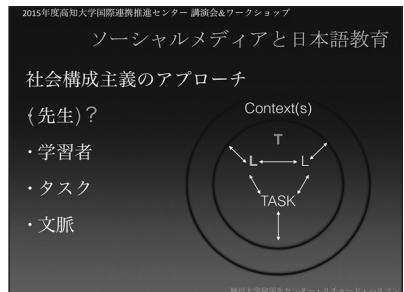
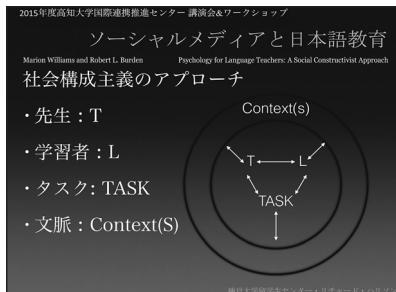
## 第2言語習得とテクノロジー

次に、第2言語習得とテクノロジーについてです。ここでは、畠佐一味先生によって2012年にくろしお出版で刊行された『第二言語習得研究と言語教育』を参考にしていただきたいと思います。1995年代前半、インターネットができるまでは、テクノロジーと言えば「オーディオリンガル」、つまり反復練習をするようなソフトが多かったです。1995年以降、インターネットが普及すると、ソーシャルな面が徐々に表れ、コミュニケーション重視となり、人間と人間のつながりが大きくなりました。畠佐先生は書かれてはいませんが、今後は、個別のニーズに答えられるようなものづくりも必要なのではないかと思います。



## 社会構成主義のアプローチ

かつてからの社会構成主義のアプローチとして、基本は「先生」、「学習者」、

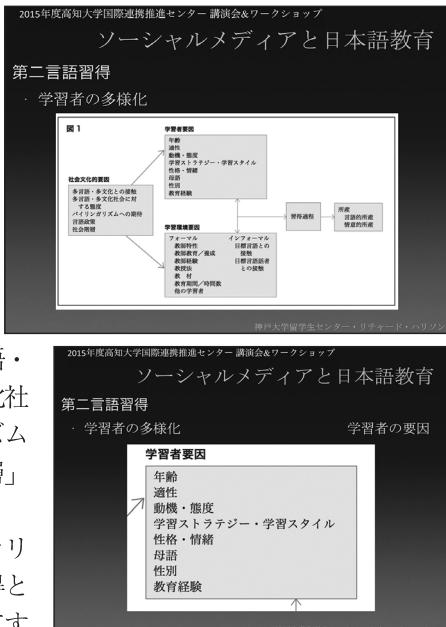
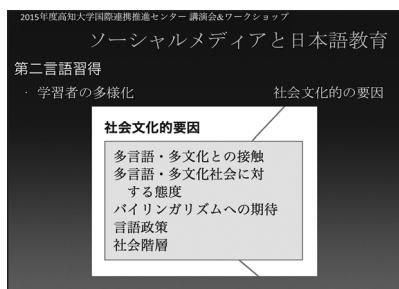


「タスク」、そして自分が置かれている学習環境の意味を持つ「文脈」の4構成でしたが、現在では、このモデルは通用しないのではないかと思います。今は、「先生」が消えているように思われるのです。教室内の学習というよりは、インターネット上で教室外の学習が、学習者同士で共有して行われて学び合っています。

## 第二言語習得

では、先生の役割はどうなってしまったのか。現在、注目すべきなのは、「学習者の多様化」です。右のスライドにある林さと子先生の研究によると、「学習者の多様化」には、学習者の年齢や、動機、学習環境などによって様々であることが分かります。林先生によると、「社会文化的要因」は、「多言語・多文化との接触」、「多言語・多文化社会に対する態度」、「バイリンガリズムへの期待」、「言語政策」、「社会階層」による要因があるとされています。

私がかつて住んでいたオーストラリアは移民の国なので、第二言語習得としての英語教育は非常に進んでいます。オーストラリアやカナダなどいわゆる移民の国では、こうした教育が盛んであると言えます。



また、「学習環境要因」には、「フォーマル(教室内)」と「インフォーマル(教室外)」があります。フォーマルな面では、例えば、「教師の性格」や「教師の経験」、「教授法」、「使う教材」の違いなどがあります。インフォーマルな面では、「目標言語との接触」が大切です。現代ではインターネット、つまり、ソーシャルメディアを使って、その場にいなくても言語と接触することができるのです。そのため、このような要因を見てこれからどのような環境を作っていくべきかは模索している最中であります。

## 今後の課題

学習者には、色々な気持ちがあり、様々な行動をとります。「学習者の特性」、「概念化」、「情意」、「学習者行動と文脈」、「学習コミュニティとしての教室」など学習者の要因があります。

では、ここで、教室とは何なのか。神戸大学では、毎朝9時～12時まで学生10人程度が15週間同じ先生の授業を受けると、その教室では少なからず小さなコミュニティが生まれます。その期間の中でも、様々な気持ちの変化や環境の変化はあり、一定ではありません。さらに、このコミュニティ活動を深く見ると、「コミュニティへの参加」と「学習者のアイデンティティ」が要因としてあります。これらは、留学生教育にも深くかかわっています。留学生に対して、留学期間だけの教育ではなく、事前事後まで幅広い教育体制を整えることも重要です。これらが今後の課題として挙げられます。

そこで、「反転授業」と呼ばれる授業方法があります。普通の授業は、先生の話を学生が聞いてそれをノートにとったり、レポートを提出したりする

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
今後の課題

- Breenの枠組み
- 学習者の特性、概念化、情意
- 学習者行動と文脈
- 学習コミュニティとしての教室
- コミュニティへの参加とアイデンティティ

（資料：高知大学国際連携推進センター講演会&ワークショップ・ハンドアウト）

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
今後の課題 反転授業 (flip teaching or classroom)

学習者は新たな学習内容を教室外で予習し、教室では他の学習者と協働しながら取り組む形態の授業である。  
学習者が予習で得た知識を応用して問題を確認しながら、意見交換を行う。  
教師とTAは、導入の授業を行うのではなく、学習の方向性をサポートする。

(事例：東京外国语大学)

（資料：高知大学国際連携推進センター講演会&ワークショップ・ハンドアウト）

2015年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
今後の課題

- ポートフォリオの可能性について



（資料：高知大学国際連携推進センター講演会&ワークショップ・ハンドアウト）

などの形式ですが、「反転授業」は、インターネットなどにアップされた学習内容を教室外で予習し、教室内ではそれを議論するという形式です。インプットを教室外で行い、アウトプットを教室内で行うことで、学生と先生とが議論し授業を進めることができます。

東京外国语大学では、ポートフォリオを使った授業を行っています。例としては、留学生が近くの小学校を訪問して、日本語教育の実態について学びます。その学んだことを各自がパワーポイントにまとめ、ポートフォリオに投稿します。投稿されたパワーポイントを皆で共有し、事前に参考し、実際の教室では考えたことを議論し、まとめるということです。これにより、先生が内容をまとめるのではなく、皆で授業を進める中でまとめていくことができます。

2015年度高知大学国際連携推進センター講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
反転授業 (flip teaching or classroom)

**Chapter 7: 小学校訪問レポート**

**Text box**  
The Japanese language is used in many ways in our daily lives. In this chapter, we will learn about the Japanese language used in schools through a visit to a local elementary school.

**Image**  
A photograph of a classroom with students and a teacher.

事例：東京外国语大学

2015年度高知大学国際連携推進センター講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
反転授業 (flip teaching or classroom)

**Maharaを使った授業実践  
-主に学習評価について-**

2014.3.14 国際シンポジウム  
「言語教育におけるeポートフォリオの活用」

東京外国语大学 留学生日本語教育センター  
©宮城 徹 tom@tufts.ac.jp

事例：東京外国语大学 神戸大学留学生センター・リチャード・ハリソン

2015年度高知大学国際連携推進センター講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
反転授業 (flip teaching or classroom)

**留日センターにおけるePの活用の主目的**  
(http://www.tufts.ac.jp/8080/commcse/jc\_kyoto/development/index.html)

**目的①：教員間でのePの共有（連携と効率化）**

各センター・教員  
シラバスの共有  
提出課題の共有  
提出による評価の共有  
提出課題の確認

留学生  
課題提出  
提出物の確認  
提出物の評価

**目的②：学習者間のePの共有（学び合い）**

事例：東京外国语大学 神戸大学留学生センター・リチャード・ハリソン

2015年度高知大学国際連携推進センター講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
反転授業 (flip teaching or classroom)

**超短期プログラムでのeP活用モデル（宮城・加藤, 2013）**

日本語を文部省によって  
ルーラー評価  
開拓的評価  
クーラー・スカウト評価

午前中：  
授業中にePの作成  
(eP活動を担当する)

午後午後：  
活動した内容をする

**mahara**

**ポートフォリオ作成：  
ePの時間(週1)**

英語版  
・日本語の読み方  
・ニンジャの読み方  
・プログラミング  
・プログラミング言語  
・ゲームの設定  
・ゲームの構築

英語版  
・Maharaの質問  
・Maharaのチェック

**まとめ：**  
教員の  
構成的な  
支援

事例：東京外国语大学 神戸大学留学生センター・リチャード・ハリソン

2015年度高知大学国際連携推進センター講演会&ワークショップ  
ソーシャルメディアと日本語教育  
まとめ

**教育理念  
Idealisation**

**評価  
Evaluation**

**システィム化  
Realisation**

**実施  
Implementation**

R. Deltote (1997) Language learning through social computing. ALAA & the Horwood Language Centre, Melbourne University

事例：マン彻スター大学日本語学科、ハンブルグ大学

神戸大学留学生センター・リチャード・ハリソン

## おわりに

最後に、まとめとして、R Debski 先生のモデルを紹介します。インターネットを使った教育をするには、何かしらの「教育理念 (Idealisation)」が必要です。そして、どのような授業形式にするのかを考えます。ここで、授業の「システム化 (Realisation)」が必要になります。さらに、授業を「実施 (Implementation)」した後、周囲から、または自分で「評価 (Evaluation)」をし、その授業が良かったのかを検討します。それを考えた上でもう一度最初に戻り、その教育が学校の理念に合うのか、予算は適当か、システムとして機能しているのかなど多くの項目で検討の余地があります。

システム構築にあたってどのような道具を使うかですが、神戸大学ではポートフォリオなどのシステムに Google を使ってはいけないことになっています。Google は様々な機能があり、非常に使いやすいツールですが、セキュリティシステムが弱いからです。去年 Google によって学生の個人情報が流出する出来事もありました。

また、評価にあたってオーストラリアなどでは、倫理問題があります。評価の対象を自分の直属の学生にさせてはいけないことになっています。教師と学生の力関係が生まれることがあり、研究の対象にはならないからです。ですから、今回様々なツールを紹介させていただきましたが、それらを実際の教育現場で使用するということは容易な話ではないということが、私が実際に現場で経験して言えることあります。

ご清聴ありがとうございました。

Richard HARRISON  
(神戸大学留学生センター教授)